

解答

- ① 1 犯行 2 再び 3 条約 4 任せる 5 愛媛  
6 香水 7 佐 8 鹿児島 9 災害 10 因果
- ② 問一 1 イ 2 エ 3 ア 4 ウ 5 ア  
問二 1 ウ 2 イ 3 ア 4 ア 5 イ  
問三 1 楽しい 2 見る 3 苦しい 4 たのむ 5 おだやかだ
- ③ 問一 a エ b ア c ウ  
問二 A ウ B ア  
問三 1 ア 2 ① 音 ② 灰色 ③ 部屋 3 膝を抱えて  
問四 1 I イ II ウ III ア 2 エ
- ④ 問一 1 守るべき者を守れないつらさ 2 何かあったら  
問二 麗音が感じているつらいことや腹の立つことを受け止めて、少しでも軽くしてあげられる〔ということ。〕  
問三 1 不安やおそれ 2 めったに弱音をはかない子  
問四 A エ B イ C ウ D ア  
問五 1 波 2 イ  
問六 ウ

解説

- ③ 出典は、<sup>しゅってん</sup>村田沙<sup>むらた さやか</sup>耶香「<sup>こうだんしゃ</sup>マウス」〈講談社〉。
- 問一 a…「諭す」とは、目下の人などに言いきかせて<sup>みちび</sup>教え導く意味です。 b…「<sup>かんねん</sup>観念」とはあきらめて<sup>かくご</sup>覚悟する意味です。 c…「たじろぐ」は相手の<sup>いきお</sup>勢いにおされてしりごみする意味です。
- 問二 A…「けたたましい」とは、急に高い音や声<sup>ひび</sup>が響いてさわがしいさまを表します。 B…「たどたどしい」は、動作・話し方などがたよりなく<sup>あぶ</sup>危なっかしいさまを表します。
- 問三 塚本<sup>つかもと</sup>瀬<sup>せ</sup>里<sup>り</sup>奈<sup>な</sup>は「……<sup>はいいろ</sup>灰色の……<sup>うすぐら</sup>薄暗い……部屋の、中<sup>な</sup>にいる……ところです……」と<sup>ひょうげん</sup>表現しています。「……<sup>わたし</sup>私、いつも、すぐに、泣いてしまって、いつも、自分でも止められなくて……そういうとき、こ、ここに<sup>と</sup>閉じこもって、その部屋にいることを考えていると、<sup>しめ</sup>落ち着くんです」とあり、受け止めたくない<sup>げんじつ</sup>現実から逃<sup>に</sup>げたい時<sup>そうぞう</sup>にはいつも想像の世界に入ろうとしていることが読み取れます。
- 問四 1…空<sup>せんたくし</sup>らんの前<sup>せんたくし</sup>後をよ<sup>せんたくし</sup>く読んでつな<sup>せんたくし</sup>がりを考<sup>せんたくし</sup>えま<sup>せんたくし</sup>しょう。選<sup>せんたくし</sup>択<sup>せんたくし</sup>肢<sup>せんたくし</sup>の中<sup>せんたくし</sup>の「さら<sup>せんたくし</sup>に」や「そ<sup>せんたくし</sup>う」などもつな<sup>せんたくし</sup>がりを示<sup>せんたくし</sup>す<sup>せんたくし</sup>もの<sup>せんたくし</sup>です。2…「自分<sup>せんたくし</sup>がばか<sup>せんたくし</sup>みたい<sup>せんたくし</sup>で、それが全<sup>せんたくし</sup>部<sup>せんたくし</sup>、塚<sup>せんたくし</sup>本<sup>せんたくし</sup>瀬<sup>せんたくし</sup>里<sup>せんたくし</sup>奈<sup>せんたくし</sup>のせ<sup>せんたくし</sup>いであるよ<sup>せんたくし</sup>うな<sup>せんたくし</sup>気がして<sup>せんたくし</sup>いた」とあるよ<sup>せんたくし</sup>うに、塚<sup>せんたくし</sup>本<sup>せんたくし</sup>瀬<sup>せんたくし</sup>里<sup>せんたくし</sup>奈<sup>せんたくし</sup>と話<sup>せんたくし</sup>すた<sup>せんたくし</sup>びに自<sup>せんたくし</sup>分<sup>せんたくし</sup>が思<sup>せんたくし</sup>い<sup>せんたくし</sup>ち<sup>せんたくし</sup>が<sup>せんたくし</sup>い<sup>せんたくし</sup>をして<sup>せんたくし</sup>いた<sup>せんたくし</sup>こと<sup>せんたくし</sup>を<sup>せんたくし</sup>気<sup>せんたくし</sup>づ<sup>せんたくし</sup>か<sup>せんたくし</sup>され、その<sup>せんたくし</sup>腹<sup>せんたくし</sup>立<sup>せんたくし</sup>た<sup>せんたくし</sup>し<sup>せんたくし</sup>さ<sup>せんたくし</sup>をつ<sup>せんたくし</sup>い<sup>せんたくし</sup>は<sup>せんたくし</sup>つ<sup>せんたくし</sup>当<sup>せんたくし</sup>たり<sup>せんたくし</sup>した<sup>せんたくし</sup>く<sup>せんたくし</sup>な<sup>せんたくし</sup>って<sup>せんたくし</sup>い<sup>せんたくし</sup>る<sup>せんたくし</sup>よ<sup>せんたくし</sup>うが<sup>せんたくし</sup>読<sup>せんたくし</sup>み<sup>せんたくし</sup>取<sup>せんたくし</sup>れ<sup>せんたくし</sup>ま<sup>せんたくし</sup>す。

④ 出典は、吉富多美／作「ハードル3」〈金の星社 刊〉。

問一 父さんの心配している内容は文章後半に具体的に書かれています。「麗音の身にまた何かあったらと思うだけで、父さんもふるえた。守るべき者を守れないつらさは想像以上だった。わが身を切られるよりも痛かった」とあります。

問二 すぐ後に「つらいことや腹のたつことは、父さんに向かってはき出してくれ」とあります。

問三 1…「その思い」とは、直前にある「つらいことや腹のたつことは、父さんに向かってはき出してくれ」ということです。——線の少し前に、「心の中にあった不安やおそれを、麗音は正直に話すことにした」とあります。2…「麗音はめったに弱音をはかない子だった」とあります。

問四 A…強いるとは、むりにさせることです。B…ため息をつくの「つく」ははくことです。C…声がくもるとは心配や悲しみが声に表れていて晴れ晴れしない様子です。D…あおぐとは、上を向くことです。

問五 1…打ち寄せる、凪ぐなどの言葉から考えます。2…凪ぐとは波や風がおさまることですから、不安や恐れがおちついてきているということになります。

問六 「しばらくぶりに登校する麗音を、父さんは案じている」とあり、行っていなかった学校に行こうとしていることがわかります。文章の途中出てくる「おれ、校門をくぐれるのかな。まだぐらついているよ。自信があるようでないんだ」という言葉からも麗音の不安がうかがえます。これがいま麗音が乗りこえようとしていることです。